



いずみ

令和6年 6月28日発行

<学校教育目標>
かしこい子
やさしい子
たくましい子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

居場所づくり

主幹 堀口 剛

新年度がスタートして3か月が経ち、1学期も残すところあと3週間となりました。子供たちは暑さに負けずに元気に学校生活を送っています。1学期のラストスパートとなりますが、健康第一で無理のないよう学校生活を送れるようにしていきます。

さて、今年度和泉小学校では、学校経営方針の一つとして「児童全員の居場所づくり」を掲げています。皆様は、自分の居場所とは?と聞くとどのようなことを想像しますか。また、子供たちの考える自分たちの居場所とはどのようなものなのでしょうか。子供たちに尋ねてみると「よいところを褒めてくれる」「自分の話をよく聞いてくれる」「友達がいっぱいいる」など様々でしたが、共通していたのは1人ではなく、必ず誰か人との関わり合いがあることでした。居場所とは他者との共存であり「自分を認めてくれる、自分らしく安心して過ごせる、ここに居ていいんだと思える」ようなことが児童の居場所となるのだと思います。

和泉小学校では、児童の居場所づくりのために様々な取組を行っています。その中の一つが「特別活動の充実」です。特別活動とは、学級活動や係活動、いずみ班活動、委員会やクラブ活動などを指します。そのねらいは、学習指導要領において「望ましい集団活動を通し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」とあります。和泉小学校ではこの子供が主体となった特別活動を進めています。子供たちが自ら考え、行動に移すことで他者との関わり合いの場が増えます。その中で、様々な個性や多様な考えを受け入れたり自己理解、他者理解を深めたりする場面が出てきます。

そこで、「みんな同じじゃなくていい」ことや「きちんとやらなければならない」といったことに縛られないことが居場所づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

学校は子供たちのためにあるものです。だからこそ常に「子供たちにとって」を第一に考え、学校が子供たちの居場所となるようにしていきます。今後とも本校の学校教育へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

7月の生活目標

学校をきれいにしよう

- 机やロッカーの中を整理整頓する。
- 計画的に学習用具を持ち帰る。

7月の安全指導

交通安全・安全な生活 (いかのおすし)

- いざという時は逃げるのが大切です。地域には【子ども110番】がありますので、逃げる場所を確認しておきましょう。また、防犯ブザーの確認も合わせてお願いします。